

平成30年1月29日

## 開 議

第1回酒田市教育委員会定例会

酒田市教育委員会会議録

## 第1回 酒田市教育委員会定例会 会議録

1 日 時 平成30年1月29日(月) 午後2時50分 開会  
午後3時40分 閉会

2 場 所 酒田市役所7階 701号室

3 出席者

出席	<del>欠席</del>	教 育 長	村 上 幸 太 郎
出席	<del>欠席</del>	委 員	浅 井 良
出席	<del>欠席</del>	委 員	岩 間 奏 子
出席	<del>欠席</del>	委 員	渡 部 敦
出席	<del>欠席</del>	委 員	神 田 直 弥

4 説明者

出席	<del>欠席</del>	教 育 部 長	菅 原 司 芝
出席	<del>欠席</del>	企 画 管 理 課 長	長 村 正 弘
出席	<del>欠席</del>	学 校 教 育 課 長	齋 藤 司
出席	<del>欠席</del>	指 導 主 幹	後 藤 司
出席	<del>欠席</del>	社 会 教 育 文 化 課 長	阿 部 武 志
出席	<del>欠席</del>	社 会 教 育 文 化 付 主 幹	熱 海 熱
出席	<del>欠席</del>	ス ポ ー ツ 振 興 課 長	富 樫 喜 晴
出席	<del>欠席</del>	図 書 館 長	岸 谷 英 雄
<del>出席</del>	欠席	図 書 主 幹	阿 部 武

5 議事日程

- 日程第1 会期決定
- 日程第2 会議録署名委員の指名
- 日程第3 前回会議録の承認
- 日程第4 議事
- 日程第5 教育長の報告
- 日程第6 その他

## ◎ 開議

(村上教育長) ただいまから、平成30年第1回酒田市教育委員会定例会を開会いたします。本日は全員出席でありますので、直ちに会議を開きます。

## ◎ 会期

(村上教育長) 日程第1 会期の決定を議題といたします。会期は本日1日限りとしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(各委員「異議なし」)

(村上教育長) ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日限りと決定いたしました。

## ◎ 会議録署名委員の指名

(村上教育長) 次に日程第2 会議録署名委員の指名を議題といたします。本日の署名委員に渡部委員と神田委員を指名したいと思いますがご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」)

(村上教育長) ご異議なしと認めます。よって、会議録署名委員は渡部委員と神田委員に決定いたしました。

## ◎ 前回会議録の報告

(村上教育長) 次に日程第3 前回会議録の報告を議題といたします。前回会議録の報告は、お手元の会議録の写しでご了承くださるようお願いいたします。

## ◎ 議事

(村上教育長) 次に日程第4 議事については、案件がございません。

## ◎ 教育長報告

(村上教育長) 次に日程第5 教育長の報告に入ります。私からの報告は、第12回小中一貫教育全国サミットの概要についてを報告いたします。お手元に第12回小中一貫教育全国サミット in 京都という開催要項が綴じている資料がありますので、そこから簡単に説明いたします。1月25日から小中一貫教育全国サミットが京都で行われました。全国サミットを京都で開催したというのはこれで今回3回目と言っていたように思います。小中一貫教育を文部科学省に対して認めてくれというふうに働きかけてきた地域で、歓迎のあいさつでは京都市長がその歴史を振り返っていました。当時、自分が教育長であった時から小中一貫教育を進めたいということでさまざまな取り組みをしてきて、今もその改革の途上にあるというあいさつでした。1日目は京都のさまざまなスタイルの小中一貫教育について、具体的に、3つのパターンに分かれ、学校公開していただきました。(1)の凌風学園では施設一体型で、大変立派な校舎で、4年生まで、それから3年生、それから2年生と4・3・2という形をとっているスタイルです。もう一つの形は、施設併用型と分かれているのですが、小学校は6年生までであるのですが、5-4制と書いていますのは、6年生になったならば、小学生であるまま中学校の校舎に行って勉強をしているというパターンです。ですから、小学校6年生の担任の先生がそのまま自分のクラスの子どもたちを中学校へ連れて行っています。そして中学校で過ごして、中学生と一緒に活動をしてみたり生徒会に入ったり、部活に入ったりさまざまな活動ができているという珍しいパターンでした。この実践については、私たち3人は非常に刺激的でした。(3)は九条中ブロックで、連携型というのはいわゆる小学校は小学校の校舎があって、進学する3年制の中学校と連携をしていくという、同じ京都でも、それぞれのやり方で進めているということで、必ずしも一緒にはしなくてもいいというか、できないというか、でも全体としては一貫教育を進めているというような感じでした。のちほどこのブロックの一部を紹介したいと思います。次のページをご覧ください。2日目は分科会があり、4つの分科会のうち3名で分担しました。指導主幹が第1分科会で、複雑な通学区域を抱える中学校区における小中一貫教育の実践を発表し合うということでした。1つの小学校で6年生を卒業しますと、同じ中学校に進まずに別々の中学校に進学することは酒田市でもあるわけですが、中学校と小学校が完全に一体化していない複雑な通学区域を抱える中学校区では、どのようにしたら小中一貫教育を進めることができるかということをお話しあう分科会だったようです。私はここには出席してないのですが、まず割り切って小学校は小学校、中学校は中学校で、分かれていても一緒に取り組めることをやってみましょう。例えば学習のルールや宿題の家庭学習の仕方とか、共通したルールを一貫して決めていき、それで進むやり方です。2日目は英語教育を軸とした小中一貫教育ですが、ここには誰も参加しませんでした。

いろいろ資料を貰ってきています。小学校から既に英語の教育が始まりますけれども、中学校と一緒にどのようなことができるのかといったことが話題になっていると思います。次に第3分科会は、キャリア教育を軸とした小中一貫教育ですけれども、この一貫教育を考える場合、キャリア教育というのが非常に大切な視点でして、子供たちが将来の自分を考えていく時にどのような教育を一貫してやればいいのかということの研究的にやっているところです。小学校は小学校の段階で自分の夢や希望を膨らませていくわけですけれども、中学校を卒業することになりますと、企業訪問したり、農業体験したり、誰かの講演を聞いたりとか、キャリアに関わる体験型、あるいは受講型の教育というのはさまざまあるわけですけれども、これを一貫で行なった場合の効果を考えているところです。山形県の新庄市の発表もあったようですけれども、こういった視点からの発表があったようです。私が出席したのは第4分科会です。児童会・生徒会活動を通した小中一貫教育でして、これは大変面白かったなと思っています。私から見れば内容は児童会・生徒会に限定しておらず、特別活動を一貫すると非常にいいのではないかとこの可能性を感じました。例えば、学級会はよくわからないとかそういう先生もいるなかで、行事だけは一生懸命やっているのですけれども、学級を良くしたり自分たちで決めたルールで生活してみたりとか、スローガン掲げて1つの運動に持っていったりだとか、そういった特別活動のやり方というのを一貫するというのは非常に大きな意味があると思ったところです。いろいろ課題もあるのですが、詳しいところは省略したいと思います。第5分科会は、施設環境の工夫が支える小中一貫教育ということで施設設備のメリットと言いますか、もし創るとしたらこういう設備で何ができるようになるのかというようなことなどについて話し合われたようです。3ページですけれども、開会行事がありまして、京都市の小中一貫教育の取り組みについて全体的な説明がありました。お手元に京都市の小中一貫教育の取り組みがあります。ここでは京都市全体として統一していることの説明があったのですけれども、5つの視点と、5つの実践というところを基本にしている。これは先ほど申し上げましたとおり、さまざまなスタイルで一貫教育を行なっているのですけれども、共通した視点と実践を持つというふうに進めているようです。一貫教育の目標、それから教育課程・指導課程を工夫すること、教育活動の連続性、それから教職員間の連携・協働、家庭、地域との連携・協力です。これはどのスタイルであってもそのスタイルに応じた取り組みが見られています。実践としましては、構想図を作り、それから学びの約束・ルールを一貫して作り、あと連携ですね。それからPDCAなどのサイクルを研修するといったようなことが基本になっているとのこと。裏の方には京都市独自の取り組みということで、既習事項の復習、確認テスト、補充学習、市独自に確認テストを用意していて、しっかり子どもの学力を見ていきましょうということも行っているとのことでした。小学校のころから中間テストや期末テストのようなものを、小中一貫で小学生が中学校と一緒にした場合の学年の組み方ですとか

そういうこともありますし、部活等もあります。全国学力・学習状況調査の結果のところも、全体として、上昇傾向にありますという説明もあったようです。そして、先ほどの3ページに戻りますと、こういった取り組みの紹介があり、パネルディスカッションがありました。それぞれの立場、京都は大学の先生方も一貫教育について研究している方も多くて、大学からの支援も増えているということです。あとは、中学校、小学校の先生方を交えてのパネルディスカッションで、今後の京都の方向性、全国の方向性について話し合いがされております。先ほど3つのパターンがあったということで、一体型の凌風学園の全体構想図が書いてあります。真ん中に鉛筆が3本立っていますけれども、これが3本柱になります。まず、真ん中の学びの作法の習得、これは学び方として習慣づけながら、小中一貫した取り組みをやらうとしています。それから、キャリア形成支援ということ、そして言語活動の充実というのは、決して珍しいことではないのですけれども、小中一貫で言語活動を充実させるということを柱の1本にきちんとしたというのはやはり特色があるのかと思います。実際に授業を見ますと、子どもたちがよく友達と話し合いをします。どこの学年を見ても全然違和感がなく、先生が黒板の前で講義をする形式は全くないと言っていいほどでした。自分の考えを述べ、人の話を聞き、まとめ、発表し、意見を交流させる。そういったことをされているということで、表現力が育っていると感じたところです。次のページ、凌風学園 学びの作法というさっきの3本柱で、それが第1ステージでは何ができればいいか、第2ステージでは何ができればいいか、第3ステージでここまで高めたいといったような目標、段階が示されています。6ページでは、キャリア教育で、3つのステージごとに何を目標にしていけばいいかということが整理されています。最後の7ページは、凌風学園の学校研究もステージごとに構想があるということです。もう少し詳しいことや、あるいはこれをどういうふうに活かしていくかといったことなのですけれども、3月に入りますと小中一貫教育についての検討会議というのを今年度から事業化していきまして、はじめて開くこととなります。第1回目の会議では、現在の酒田市の実情、これは一貫教育というよりは連携ですけれども、どういった連携をしているのかといった実態分析を報告し、今後の酒田市の一貫教育の在り方について、ある意味ゼロベースからさまざまな方向・可能性を考えて検討を始めていくというつもりです。今、その助言者を京都から呼べないかと考えていきまして、今回視察に行った京都市のリーダーの大学の先生をこちらにお呼びして、そこでさまざまな形を併用しつつ何を目指せば本当に一貫教育の良さがでるのかということについて議論をしていけないかと思っています。折に触れてこの一貫教育の内容については時々報告したいと思っていますので、今日はこの程度にさせていただきたいと思います。なにか委員の皆様方の方からご質問などございましたでしょうか。もしあれば、いつでも話題にさせていただければと思いますのでお願いいたします。

## ◎ その他

(村上教育長) 次に日程第6 その他に入ります。報告事項1 平成29年12月定例市議会における質問状況について、教育部長より報告お願いいたします。

(教育部長) それでは平成29年12月定例市議会について、ご報告申し上げます。1ページから7ページまでの割振り一覧に沿って説明させていただきます。詳細については8ページ目以降に掲載していますのでこちらもお覧いただきたいと思います。今定例会では、教育委員会所管事項についての代表質問がありませんでしたので、一般質問から説明いたします。初めに2ページ目をご覧ください。番号1番、佐藤猛議員から中高一貫教育をどのように考えているのか、また全国的な動向についての質問がありました。それについては、中高一貫教育は生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現を目指すものとし、その利点・課題等について述べ、中高一貫教育を得る機会が提供されるのであれば本市の保護者、生徒にニーズに応えられるものであってもらいたいと考えている旨、また動向については文科省のデータを元に全体として増加傾向にあるとしています。同じく、2ページ目をご覧ください。番号5番、池田博夫議員からは、若者定住促進の取り組みの観点から、給食費の考え方について質問がありました。これについては、本市では学校と保護者の信頼関係の中で給食未納費、未納額、未納者が減少傾向にあること、また低所得世帯への就学援助等の支援が、県内の市・町と比べ手厚くして認定していること、そのため現時点での踏み込んだ支援は考えていない、文科省の学校教育無償化等調査が行われたことからその結果を見てその措置が必要であるか検討していく旨答弁しています。次に、3ページ目、番号6番、武田恵子議員からは、働き方改革に関連しまして、教職員の超過勤務の実態、労働時間の監督についての質問があり、これについては、出勤退勤時刻を記入した出勤票の毎月提出を受け管理職が勤務時間を把握しており、長時間勤務者へは適切な措置を講ずることが大切である旨お答えしております。同じく3ページ目、番号8番、佐藤伸二議員からは、本市の山林整備の一環として、山に興味を持っていただくことが必要ではとの考えのもと、小学校の授業の一環として山へ入る授業ができないかとの質問がありました。これについて本市では、環境教育の一環として総合的な学習の中で万里の松原の整備と松林を守り育てる活動を実施したり、自然体験学習推進事業では小学校4・5年生児童が鳥海山登山や自然散策と自然に触れる活動を行っており、さらには林業という産業の視点からも社会科の学習と関連付けて、山林を守り育てるような活動に広げていきたい旨答弁しています。次に4ページ目、番号9番、江口暢子議員からは、北前船日本遺産認定による本市の活性化として歴史文化財産資料に対する取り組みということで、散逸を防ぐ必要性や、デジタルアーカイブ化によるデータ保存、東北公益文科大学「文化財デジタル化研究所」との連携の必要性についてお

尋ねがありました。これについては、散逸方針の必要性は認識しており、その手立てとしても寄託や寄贈を受けたり、購入の手立てを行っていること、デジタルアーカイブ化については保存と活用を図るうえで有効な手段であり連携を進めていくとともに、東北公益文科大学「文化財デジタル研究所」との連携も探っていきたい旨答弁してまいります。次に、5ページ目をご覧ください。番号13番、五十嵐栄治議員からは、学力向上対策ということで現状をどう捉えているか、また今後の対策についての質問もありました。これについては、学力向上対策として3つの課題を上げています。1つは、数学に対する関心、意欲の低迷。2つ目は、一人ひとりのつまずきへの対応が十分でないこと。3つ目は、学力テストでの正答率75%の児童生徒の割合が全国・県に比べて低いことが平均点の伸び悩みにつながっていることを述べ、その対策として、単元研究の委嘱、先進校県外視察や師範授業、複数校の先生方が見合う授業研究会等の授業を進めるとともに、中学校では個別に昼休みや放課後に数学の質問コーナーを設けるなど、学校単位で特色ある取り組みを実践している。今後も教育環境の充実、教員の指導力向上、学習習慣の形成という3本柱を軸に、学力向上を進めていきたい旨答弁しています。同じく7ページ、番号15番、斎藤周議員からは、新たな子育て支援策の拡充として学校給食の無償化について、財源、先進視察などの質問がありました。これについては、無償化した場合の本市の持ち出しが小学校で2億4000万円、中学校では1億6000円となり、大きな財源が必要になること。給食無償化実施自治体は今のところ少なく、無償化についての評価はまだ定まっていないことから、視察は今のところ考えていないこと。今後については、先に池田博夫議員の答弁にもありましたが、文科省の調査を注視していききたい旨答弁しています。次に6ページ、番号17番、高橋正和議員からは最上川を世界遺産にということで、最上川100年プランや、最上川フォーラム、世界遺産となる要件などいくつかの質問をいただきました。これについてはこれまでの世界遺産登録の提案の経緯、それから最上川100年プラン、最上川フォーラムについては現在、NPO、行政、事業者が連携してさまざまな取り組みを行っており、その活動の重要性は認識していること、世界遺産の認定に関してはこれまでの経過を踏まえても課題が非常に多く、世界遺産登録は難しい旨答弁しています。また、高橋議員からは運動部活動の現状についてということで、本市の運動部活動の参加率、外部指導者の人数、活動状況等の質問を踏まえて本市の課題等についての質問がございました。本市の課題としては顧問教諭の負担が増えていること、練習に熱が入るあまり要求も高くなり、練習時間が長引いたり休みが取れない状況になっていることが挙げられるとともに、顧問として競技経験のない教員が指導に苦勞している点があること、またブラック部活動についてもご質問がありまして、これについてはアンケートで実態把握のため準備をしており、問題点を整理し適切な指導を行っていききたい旨答弁しております。次に7ページ目、佐藤弘議員からは「知・徳・体の調和」と「いのち」を大切にする教育の推進について、として



道徳の評価、NRTの結果と分析、教科としての英語に対する研修計画、新学習指導要領の授業時間数増に対する授業時間数の確保、前年度の体力・運動能力テストの結果と分析についてということで、広範囲に渡った要求に対する質問がありました。これについては道徳の評価については、小学校学習指導要領解説に則り行うことを基本とし、指導要録の記載方法についても今年度中に各校に示していきたい、また通知表についても学校の主体性を尊重しながら各校の相談に応じていくこと。NRTの結果分析については、小学校は4教科とも全国標準を上回り、中学校では英語が全国標準をわずかに下回っているがそれ以外は全国標準を上回っていること。また英語教科の先生の研修計画については今後も外国語活動研修会を継続するとともに、実際の授業に見合う研修やALTとの授業のあり方などについての研修を行うこと。新学習指導要領の小学校授業時間数増については、来年度から市内のほとんどの学校で先行実施であり、教育課程の編成については学校の主体的な判断によるものであり、市教委としてはそれを尊重していきたい。体力・運動能力テストの結果と分析については、体力合計点では小学校男子は若干全国平均を下回ったものの、小学校女子、中学校男女ともに全国平均を上回っている結果であり、種目別では課題であった50メートル走については全国平均に比べ小学校では男子では0.16秒、女子では0.07秒、中学校では男子では0.02秒遅く、女子では0.04秒早いという結果であったことを答弁しています。また、佐藤議員からは山形県最初のオリンピック茂木善作さんのかかわりということで質問がありました。これについては郷土が生んだ偉人の功績を後世に語り継ぐため、ふるさと教育の推進の中で取り上げていくのも一つの方法と考え、検討し対応していきたい旨答弁しています。最後に、同じ9ページ番号20番、齋藤美昭議員からはスポーツによる地域振興ということで、スポーツ推進計画の進捗状況、生涯スポーツの推進、競技スポーツの振興についての質問がありました。これについては平成25年度から計画に沿ってニュースポーツといわれるペタンクやカローリングなど軽スポーツに取り組んできたこと。計画により、教育でスポーツに親しむ人の割合が目標値に近づいてきていること。今後も体振興会やスポーツ推進委員会等で連携して、ニュースポーツの普及に取り組むことも考えて、市民への周知について工夫していきたい旨答弁しています。競技スポーツの振興については、体育協会や各競技団体を中心に進めており、毎年10名以上の選手が全国大会で優勝しており、今後は子どもの基礎的運動能力の向上が必要であり、スポーツに触れ親しむ機会を増やし競技力の向上に努めるとともに、施設整備のあり方も検討していきたい旨答弁しています。以上が12月定例会の質疑答弁の内容になります。当定例会は先の市議会議員選挙後初めての議会でありまして、各議員とも選挙公約に教育委員会所管の分野が非常に多く、20名の一般質問者に対し10名の議員の質問がございました。以上です。

(村上教育長) ただいまの報告に、ご質問・ご意見などございましたらお願いいたします。ないようですので、次に報告事項2について報告をお願いします。

(企画管理課長) それでは報告事項の2、小林教育振興基金青少年善行奨励賞表彰について、報告申し上げます。この事業につきましては本市出身の小林甲彌太さんの寄附に基づき創設した小林教育振興基金を活用いたしまして、善行活動をされている青少年の表彰を行うものです。受賞者につきましては1月18日に審査会を開催いたしまして、受賞者を決定したところです。今年度受賞者については、団体では若浜小学校第6学年と、田沢小学校児童会の2団体。中学校では第四中学校第3学年の2名の方を表彰する予定となっています。善行の内容については、資料の善行内容をご覧くださいと思います。なお、表彰式の日程ですけれども、2月21日午後3時30分から総合文化センター412号室で開催する予定です。委員の皆様にもご案内をいたしますので、ご都合がつくようであればぜひご出席をいただきければと考えています。以上です。

(村上教育長) ただいまの報告にご質問・ご意見ございませんでしょうか。

(浅井委員) 今年度の受賞者の数ですけれども、例年に比べると大変少ないように感じます。なにか理由等があれば教えていただきたい。

(企画管理課長) 受賞者につきましては、昨年度が団体5団体、個人が7名、その前の平成27年度が団体6団体、個人が3名ということになっています。今回も受賞者につきましては2団体と2個人ということになっていますけれども、実際に推薦のあったものについては3団体と2個人ということでした。1つの団体につきましては、昨年度と同じ内容で昨年度表彰済みということで今回は非該当にさせていただいています。ただ実際のところ、昨年、一昨年と比較いたしまして推薦の数が少ないというのが実情でして、理由の方は明確ではないので、今後推薦については学校の方を中心にこの賞についてもPRしていかなければいけないということで考えております。

(浅井委員) せっかくの機会ですので、もう少しPRして応募数を増やしていくといった手だてが必要かと思います。

(村上教育長) 小林さんとお会いしていた時によくご本人が言ったのは、高校の部とか、大学生からも受賞してもらったので、今年はないのですかというのは聞かれました。また、応募していいのかと思っている高校や大学もあるかもしれません。社会、地域から褒められる人はいないものだろうか、いつも学校に働きかけて学校が推

し出して推薦してくださるのですけれども、推薦者がいつも学校とは限らないで、どうしたらいいかわかりませんが、地域からの声が届けば、ぜひ青少年を含めて表彰できればこの賞を活かすことになるのかなということについては話題にしているところです。これをPDCAで回して来年度募集をかける段階から少し改善できればいいと考えております。

(企画管理課長) この小林教育振興基金につきましては、地域からは学校を経由して推薦されてくるような手順になっていまして、こういったご意見も踏まえながら直接コミュニティ振興会に推薦をあげることはできないかという部分も含めて今現在検討しているところです。

(村上教育長) 他にございませんか。ないようですので、次に報告事項3、4についてお願いします。

(学校教育課長) 報告事項3 第28回「ふれあい少年の翼」受け入れについて、ご報告いたします。平成30年2月7日水曜日～10日土曜日までの3泊4日で今帰仁村小学校の児童35名が酒田に来られます。概要につきましては、スキー体験それから今年度は広野小学校との交流交歓会を行ないます。民泊体験を1日行いまして、3日目の2月9日18時30分より歓迎のレセプションを開催することになっています。4日目2月10日にはお別れ会を行い、広野コミセンを出発して東京へ向かうという工程です。

続きまして、報告事項の4になります。インフルエンザの集団発生に係る臨時休業について、です。学校の状況につきましては、1月29日現在の表をご覧くださいければと思います。現在、学年閉鎖は小学校4校、学級閉鎖は小学校6校の状況です。なお、この情報につきましては関係課に情報提供するとともに、市役所ホームページにも掲載しているところです。以上です。

(村上教育長) ただいまの学校教育課からの2件の報告について、ご質問やご意見はありませんか。次に報告事項5について報告をお願いします。

(スポーツ振興課長) 報告事項5、白崎資金スポーツ優秀選手表彰について、報告いたします。この表彰制度は、かつて市内で開業していた医師である故白崎重弥先生のご好意により設けられたものであって、白崎先生の意志に基づきましてスポーツで優秀な成績を残した選手の表彰を昭和55年から行っているものです。表彰対象者につきましては、小学生では県大会以上で優勝、中学生では東北大会以上で優勝、高校生・一般につきましては国体・インターハイ等の全国大会で優勝、オリンピック・アジア

大会に出場した方という要綱になっております。今年度の受賞者につきましては、1月16日に開催しました審査会におきまして、国際大会出場につきましては1名、全国大会優勝については11名、東北大会で優勝については15名、県大会優勝については82名ということで決定しています。参考までに受賞者数の推移を載せていますが、27年度から28年度が90名の減少になっていますが、これは野球・バスケット・バレーボールといった団体競技の優勝がなかったということが大きな要因となっています。また、今年度の表彰交付者の選考基準を明確化させるため、対象となる大会について基準を見直しています。最後に表彰式についてですが、2月24日午前10時から、公益研修センターのホールで1時間程度予定しています。委員の皆様にもこれから文書によりご案内させていただきますので、ご出席くださいますようお願いいたします。以上です。

(村上教育長) ただいまの報告にご質問・ご意見はございませんか。ないようですので、次の報告事項6について、図書館長お願いします。

(図書館長) それでは報告事項6 矢祭町手づくり絵本コンクールでの受賞について報告申し上げます。このコンクールの概要ですけれども、福島県の南端にございます矢祭町の子ども読書の街づくり推進委員会が主催して、矢祭町教育委員会及び矢祭もったいない図書館が共催しているものです。第9回となりますこのコンクールにおいて、毎年市立図書館で実施しています夏休み親子手作り絵本教室で作成した作品17点を応募したところ、うち親子1組が優秀賞を受賞したというものです。当該絵本コンクールの家族の部の応募作品は102点です。審査委員としてはノンフィクション作家として有名な柳田邦男氏等が行っています。受賞状況ですけれども、優秀賞に絵本の表紙がありますけれども、「あまはげってね」というもので浜田小学校4年生の齋藤叶瑚さん、お母さんの齋藤智子さんです。なお、齋藤叶瑚さんは平成27年、28年2年連続で最優秀賞を受賞して、今年は優秀賞ということでした。なお、図書館主催の夏休み親子手作り絵本講座は平成24年度から毎年行っておりまして、講師は一般社団法人子どもの読書サポートアシード代表理事 加藤美穂子先生です。今年度の参加者は親子24組、51名です。なお、この矢祭町の手づくり絵本コンクールには平成26年度から4年連続で出品してございまして、4年連続での受賞となります。私の方からは以上です。

(村上教育長) ただいまの報告にご質問・ご意見ございませんか。ないようであれば、委員の皆様方より何かご報告等ございませんか。

(村上教育長) 以上を持ちまして、本日の日程は全て終了しましたので閉会いたします。